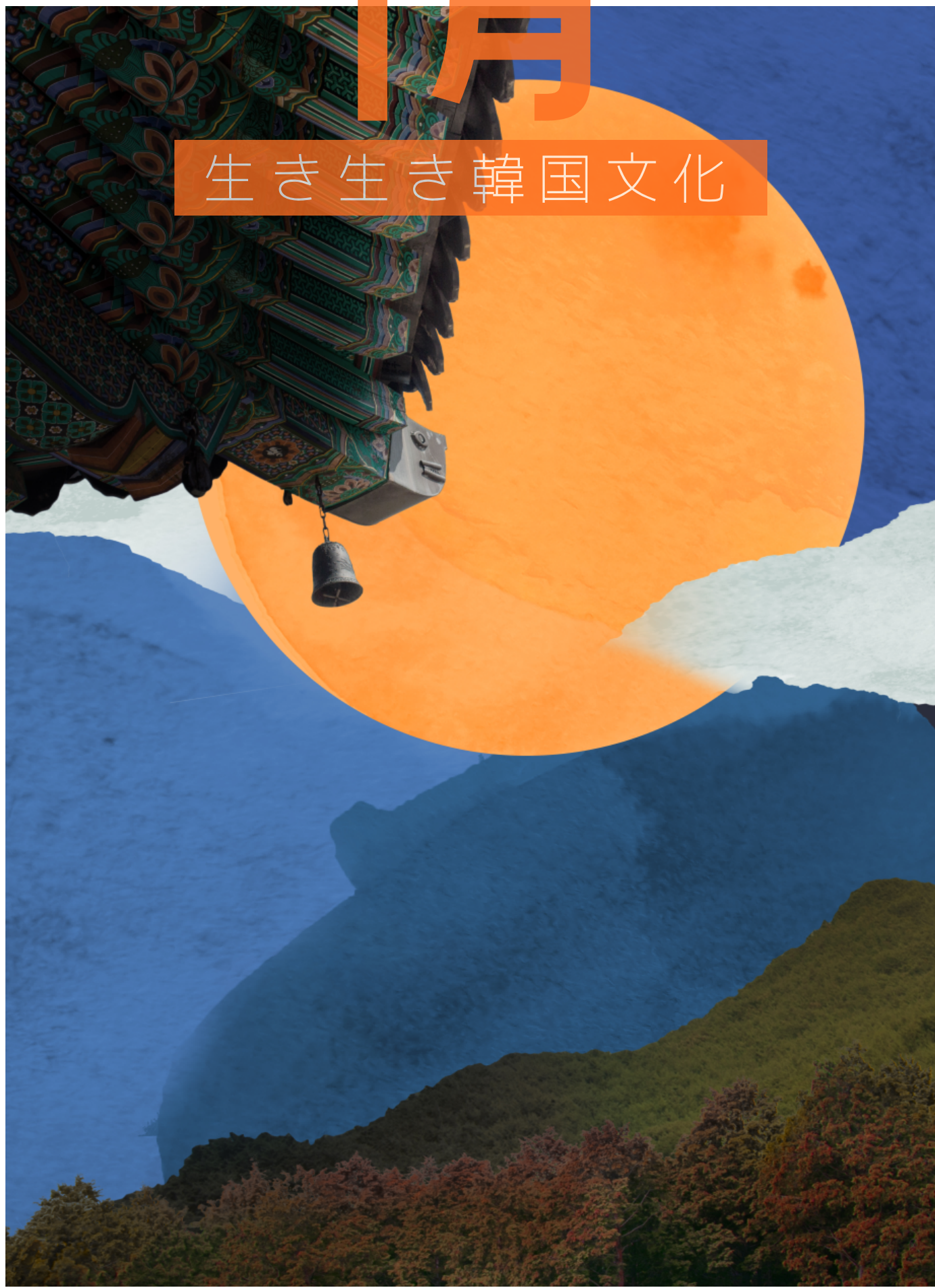


1月

生き生き韓国文化



韓国の新年文化

セ ヘ ボ ッ マ ニ バ ド ウ セ ヨ

새해 복 많이 받으세요

あけましておめでとうございます

何でも新たに出発できそうな気がする新年の始まり。皆さんは昇る太陽を見ながら、それぞれどんな願いを祈りましたか？こうした活気に満ちた2023年を記念して、本号では韓国の新年文化についてご紹介します。一番近い国だけど、両国の新年文化には、かなり違うところがあるのかも…

2023 新正とは？

日本では「元日」と称する新暦1月1日。韓国では「新正」と言います。1日前後で連休の長い日本とは違い、韓国では1月1日のみが休日に指定されています。

2023 新正の風景：除夜の鐘



△ソウル市長をはじめ、各界の有名人と市民代表が鐘を突いている/写真: ソウル日報

韓国の新年は「除夜の鐘」から始まります。一番大きく行われるところはソウルの鍾路(ジョンロ)に位置した「普信閣(ボシンガク)」で、毎年、約10万人ぐらいの人が集まります。

日本では百八煩惱を振り払い、新年を迎える意味をこめて、鐘を108回つき鳴らす一方、韓国は33回だけ鐘をつきます。

その由来は朝鮮時代に遡ります。朝鮮時代では、午前4時にソウルの城郭8門が開かれることを知らせるために、普信閣の鐘を33回突いています。これを「罷漏(パル)」と言いましたが、仏教の守護神である帝釈天が率いる「三十三天」に国の太平と国民の無病長寿、平安を祈るという意味が込められています。

2023 国民全体が一緒の日に年を取る?! : 数え年

韓国は、かつて漢字文化圏で広く使われた「数え年」を公式に維持する最後の国とされます。数え年とは生まれた年を1歳として、新年を迎えるごとに年を重ねる年の数え方です。韓国では分野によって満年齢や、数え年から1歳を引いた年齢の数え方も使用していますが、日常の中で使う数え方は「数え年」です。つまり、韓国は新年を迎えると同時に、国民全体が一斉に1歳を取ることです。

そのため、韓国社会ではどの数え方を適用するか基準が明記されていない場合もあり、中高年の雇用政策や、新型コロナウイルスのワクチン接種年齢などをめぐり混乱を招いてきました。このような問題を考慮して、韓国国会は2023年6月から数え年を廃止し、満年齢に統一する法案を可決しました。一方、韓国は年齢によって言葉遣いを厳格に分ける文化なので、「同学年でも年齢に違いが出る満年齢は、友人関係に影響する」などと懸念する声も上がっています。

韓国の初日の出の名所



ソウル
ハヌル公演



△ 写真/麻浦区庁



江陵(カンヌン)
正東津(チョンドンジン)



△ 写真/韓国日報



浦項(ポハン)
虎尾串(ホミゴツ)



△ 写真/浦項市庁



済州(ジェジュ)
城山(ソンサン)日出峰



△ 写真/wishbeen